



2024年4月9日

報道関係者各位

慶應義塾

慶應義塾ミュージアム・コモンズ (KeMCo) 現代アート展 「三原聡一郎 レシピ：空気の芸術」開催 (6/3-8/3)

身の回りの様々な物質や現象を芸術に読みかえる制作を行うアーティスト、三原聡一郎。三原は、メディアアートの基盤となる民主化されたテクノロジーの視点・方法を介在させながら、環境に呼応する「開かれた系 (システム)」のあり方をインスタレーションとして提示してきました。本展覧会では、近年の三原の制作活動を一望するとともに、作品の根幹を「レシピ」としてアーカイヴ化していく試みを展示します。加えて、KeMCo と三原が昨年度より共働してきた、コンポスト・プロジェクトや慶應義塾中等部との「物質循環」ワークショップの実践も紹介します。見えない対象を作品化し、それを自ら記述するアーティストの思考と実践をお楽しみください。

1. 基本情報

会 期：2024年6月3日 (月) - 8月3日 (土) (土日祝休館)

特別開館 6月22日 (土)、8月3日 (土)

臨時休館 6月24日 (月)、7月29日 (月)

会 場：慶應義塾ミュージアム・コモンズ (三田キャンパス東別館)

開館時間：11:00-18:00

入 場：無料、事前予約不要

※最新情報はウェブサイトをご確認ください。 <https://kemco.keio.ac.jp/>

2. 展覧会の概要

身の回りにあるさまざまな現象について独自の方法で芸術への読みかえを行い、そこにあるシステムやゆるぎのプロセスを可視化・可聴化していく三原聡一郎。メディアアートの基盤となるフリーカルチャーやオープンソースプラットフォームといった民主化されたテクノロジーの視点・方法論から、開かれた系 (システム) のあり方を探り「装置としての芸術」の探究を行っています。

我々を取り巻く現象・事象に焦点を当てた制作活動を展開してきた三原は、近年、それらをマッピングすることで、自身の作品と制作の関心が「振動」「呼吸」「粒子」の3カテゴリーから成ることに気づき、「空気の芸術」と名づけました。加えて、三原は作品の「レシピ」づくりを実践しています。レシピとは、三原の作品の根幹であるゆるぎのプロセスを想像する方法自体をアーカイヴ化していく試みです。そこでは、芸術作品のメカニズム詳細を可能な限り記載すること、レシピに準ずる限り再制作を許可することなど、芸術実践における循環や還元性についても思考しながら、実験的に制作が進められています。

本展覧会では、新作の《粉を挽く》を加え、近年の三原の制作活動を一望することで、我々を取り巻く循環的な世界にさまざまな切り口から迫る「空気の芸術」について体感いただくとともに、「レシピ」の展示を行います。作品とレシピを同時に示すことで、作品と記述のあり方、想像力を他者と共有する試み、作家の生前意思、再制作・再展示といった問題をめぐる、三原の関心と実践に光を当てます。

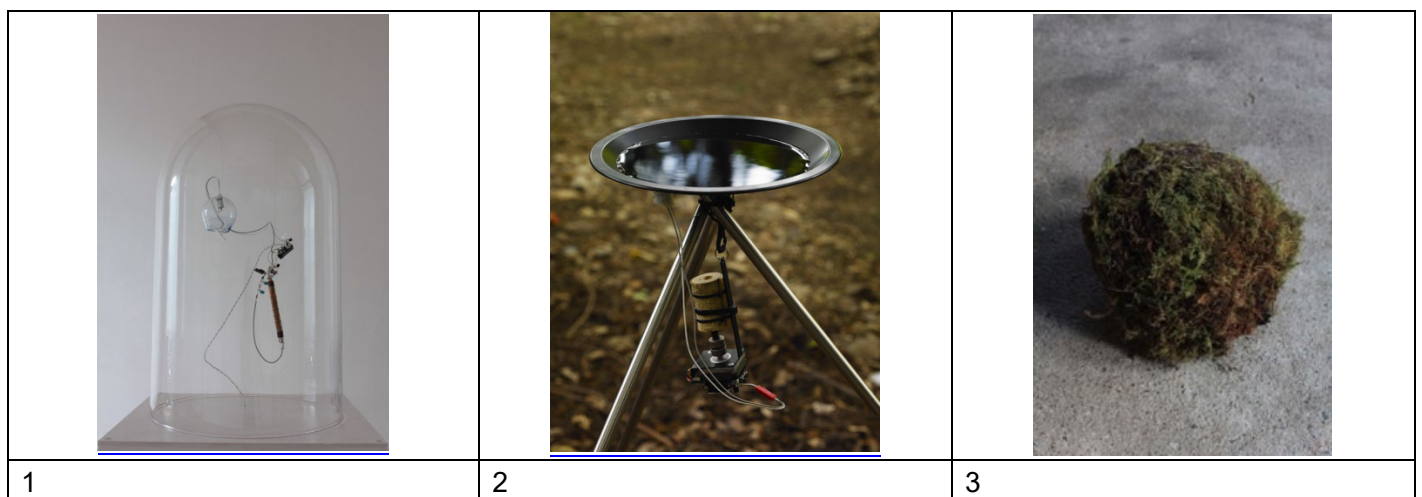
三原 聡一郎 / アーティスト

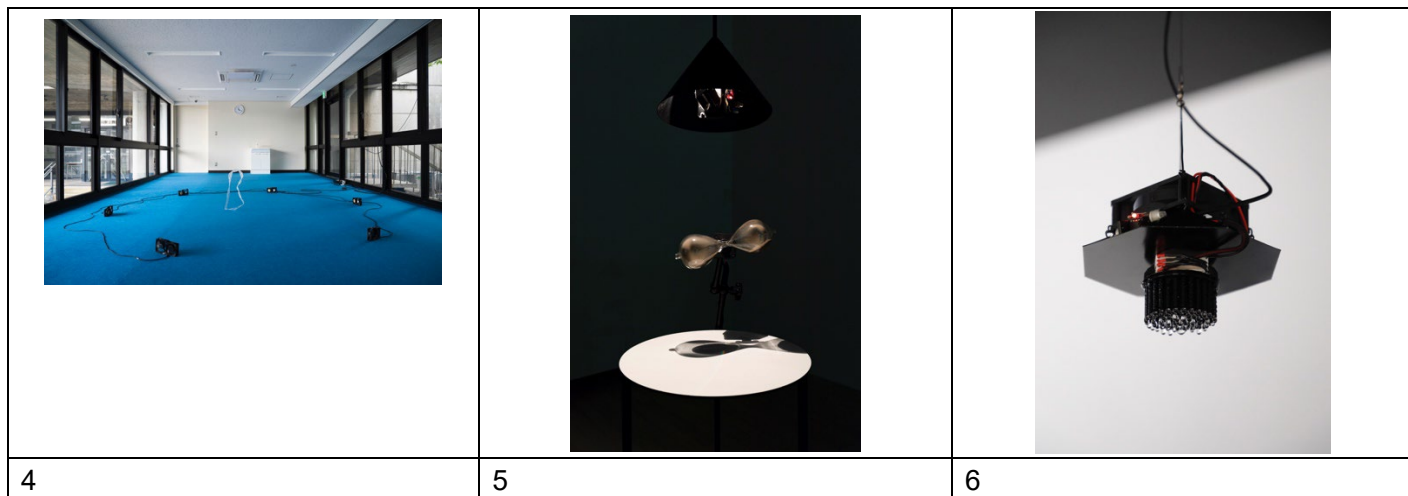
世界に対して開かれたシステムを提示し、音、泡、放射線、虹、微生物、苔、気流、土、水そして電子など、物質や現象の「芸術」への読みかえを試みている。2011年より、テクノロジーと社会の関係性を考察するためのプロジェクトを国内外で展開中。近年、これまでの活動を「空気の芸術」として、振動、粒子、呼吸というカテゴリーに基づいたアーカイヴ実験をレシピの形式に基づいて進めている。主な個展に「空白に満ちた世界」(クンストラム・クロイツベルク・ベタニエン、2013/京都芸術センター、2016)「土をつくる」(公開中 compost.mhrs.jp、2021-)、グループ展に「エナジーインルーラル」(国際芸術センター青森、2023)、「恵比寿映像祭」(東京都写真美術館、2020)、「札幌国際芸術祭」(芸術の森有島旧邸、2014)、「サウンドアート-芸術の方法としての音」(ZKM、ドイツ、2012)など。展覧会キュレーションに「空白より感得する」(瑞雲庵、2018)。共著に「触楽入門」(朝日出版社、2016)。アルス・エレクトロニカ、トランスメディアアーレ、文化庁メディア芸術祭、他で受賞。プリアルスエレクトロニカ 2019 審査員。NISSAN ART AWARD2020 ファイナリスト。2022年より「3月11日に波に乗ろう」を共同主催。方法論の確立していない音響彫刻やメディアアート作品の保存修復にも近年携わっている。

<http://mhrs.jp>

3. 主な出品作品

1. 《鈴》2013 | 個展「the world filled with blanks, kunstquartier kreuzberg bethanien」より [作家撮影]
2. 《想像上の修辞法》2016 | 対馬アートファンタジア 2016 展示より [撮影：山本糾]
3. 《コスモス》2014- | 「空き家の種まき」展示より [作家撮影]
4. 《空気の研究》2017 | ニッポンフェスティバル展示より [撮影：西野正将]
5. 《8'17"》2020 | 第12回恵比寿映像祭「時間を想像する」展示より [撮影：才木暢宏、提供：東京都写真美術館]
6. 《無主物》2020 | 日産アートアワード2020 展示より [撮影：木奥恵三]





4. 関連イベント

1. アーティスト・トーク | 2024年7月8日(月) 18:15～

*会期中には、この他の関連イベントの開催も予定しています。詳細は展覧会ウェブサイトにてお知らせいたします。<https://kemco.keio.ac.jp/>

2. 展覧会記録集刊行

*展示作品および関連イベントを網羅した記録書籍を刊行予定です。

5. 会場案内

会場：慶應義塾ミュージアム・commons

住所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学三田キャンパス 東別館

交通アクセス：田町駅 (JR 山手線/JR 京浜東北線) 徒歩 8 分

三田駅 (都営地下鉄浅草線/都営地下鉄三田線) 徒歩 7 分

赤羽橋駅 (都営地下鉄大江戸線) 徒歩 8 分



慶應義塾ミュージアム・commons
(三田キャンパス東別館) 外観

6. 主催・運営

主 催：慶應義塾ミュージアム・commons

特別協力：株式会社ニソール

協 力：株式会社田村商店

京都芸術センター 制作支援事業

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社教育部、文化部等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室（担当：若原）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>